

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3893600035
事業所名	グループホーム紅葉の里・おだ
(ユニット名)	いちよう
記入者(管理者)	
氏名	木山 敦江
自己評価作成日	令和5年10月31日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 家庭的な雰囲気の中で自分らしい生活が続けられ、笑顔で毎日が過ごせるホームを目指します。第二の故郷と思っただけのように暖かいもう一つの家を作っていきます。</p>	<p>【 前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果 】 地域における災害対応の連携が段階的に構築出来る。 内子町の土砂災害避難訓練に参加し、車椅子利用の利用者が多い為地域の方の協力が必要だが、日頃からの連携や、合同での訓練などの体制が出来ていない為、運営推進会議にて地域の避難訓練の様子や、BCPの作成について一緒に検討している。 また、紅葉便りにて防災コーナーを設けて伝えている。 地域住民の方に、グループホームにおいても、介護相談支援が行える事を知って頂く。 いまだ、コロナの増減が続いており、以前行っていた紅葉カフェの再開が出来ていないが、時々電話等で聞かれる時もあり対応している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 紅葉(もみじ)の里という名前の通り、秋に訪れるとなんとなく懐かしい景色の広がる内子町小田の山間地域に事業所は立地している。リビングの窓から、利用者等は四季の移り変わりや日々の天気を感じやすくなっている。隣家には立派な和風庭園があり、利用者は室内から素敵な庭の景色が眺められるようになっている。また、地元に住む職員が多く、利用者にとって自宅にいるような感覚で生活を送ることができ、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、職員や利用者との良好な関係が築かれ、会話が弾むほか、穏やかで安心して居る環境にも繋がるなど、温かくてのんびりと自由で過ごすことができている。加えて、限られる介護サービスの地域性から、グループホームでの生活が長くなり、身体の重度化が進む中で、職員は利用者へ寄り添うことを大切に支援に努めている。令和5年5月に新たに就任した管理者を中心に、食事を沢山摂って、笑うことで精神が安定し、健康維持を図るために、利用者自らのできることを重視した支援にも取り組んでいる。</p>
---	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくてきている ○ほぼできている △時々できていない ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	常に利用者の気持ちがわかるような声掛けをしている	○	/	◎	日々の生活の中で、職員は利用者への声かけの工夫をしながら、「どうしていきたいのか」などの思いや暮らしの希望を聞くよう努めている。中には、日課にしている朝の散歩に、タスキをかけて、一人で行ける利用者もおり、入居から時間が経過した現在は、職員と一緒に散歩に出かけるようになっている。また、コロナ禍や感染対策が続いていた中でも、利用者から強い希望が出され、一時帰宅の支援に対応したこともある。さらに、新たに知り得た情報は、アセスメントシートに追記するなど、記録に残すことができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	スタッフみんなで話し合い支援に努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思いについて話し合っている。	◎	面会時等家族や本人の意見を尊重しながら確認している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気持ちシートや日常の会話を記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日常の会話で本人の思いを知り、スタッフ間で話し合いをしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時の情報や家族さんの話などでスタッフ全員で共有している。	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、情報を収集している。また、兄妹や友人の面会時にも、大切にしていることや今までの生活の様子などの聞き取りをしている。さらに、病院や介護サービス事業所の関係者等から情報提供してもらうこともある。加えて、知り得た情報は、アセスメントシートや申し送りノートなどに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日頃の生活の中で観察し、スタッフ間で話し合い把握している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りや介護記録で把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その場で話し合ったり、カンファレンス等で検討している。	/	/	◎	カンファレンスには、全ての職員が参加し、課題などの話し合いをしている。利用者の生活や習慣の背景が分かりやすいセンター方式のアセスメントシートを活用して、D-1「私のできること、できないこと」シートや、D-2「私のわかること、わからないこと」シートに、把握した情報を分かりやすく取りまとめて記載し、日々の支援に繋げている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人の気持ちを聞いたり、スタッフ間で話し合い把握に努めている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人や家族に確認しながら作成している。	/	/	/	介護支援専門員が、利用者や家族から意見を聞くほか、医師や訪問看護などの関係者から指示やアドバイスをもらい、生活情報や把握した情報をもとに、介護計画を作成している。家族が面会に来られた際に、計画の説明を行い、同意をもらっている。また、「高校野球や相撲の観戦を楽しみたい」という利用者の意見が出され、アイデアを計画の中に盛り込んだ事例もある。さらに、事業所から出ていこうとする利用者の対応方法を計画に入れることもある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	カンファレンスで話し合い、本人、家族、関係者の意見を聞きアイデアを反映し作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	慣れ親しんだ暮らし方で、穏やかに過ごせるような内容となっている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や地域の方の協力体制を盛り込んだ内容となっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでも見て確認できる。			◎	各ユニットに個別のケース記録が置かれ、職員は確認できるようになっている。職員は介護計画の内容を手軽に見て、経過記録を記載できるように、専用のファイルを用意している。また、申し送りノートや会議の議事録の内容が変更された場合には、変更内容を記録に残している。さらに、計画の目標やサービス内容には、項目ごとに番号が付けられ、モニタリングや評価を行いやすいよう工夫されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録などに記録し、状況を確認しながら支援につなげている。			○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に行い、状況が変わればその都度行っている。			◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。利用者ごとの担当職員と介護支援専門員が、情報収集や見直しの計画案を取りまとめて、職員間でカンファレンスを実施している。また、担当職員を中心に、モニタリングを行い、短期目標ごとに5段階評価を行うとともに、特記事項の欄に必要事項を記載することができている。新たな要望がない場合でも、「私の気持ちシート」を作成することで、隠れた要望に気づきやすいようにしている。さらに、状態の変化等が見られた場合には、利用者本人の置かれている背景要因の確認やアセスメントをして見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングを行うことで確認している。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化のある場合は家族に連絡し、スタッフ間で見直しを行い新たに計画を作成する。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回の会議で話し合いを持ち、緊急案件がある場合、会議はしていないが話し合い、記録を残している。			○	ユニットごとに、月1回職員会議やカンファレンスを実施し、管理者とユニット長が1階と2階に分かれて参加をしている。職員が会議に参加しやすいように、事前に日程調整を行い、夕方の時間帯に会議を実施している。また、会議に参加できない職員には、会議の議事録を確認してもらおうとともに、会議の後で意見を出してもらうなどの工夫をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ全員が意見を出せるよう雰囲気作りをしている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	◎	全員が参加できるよう、夕方の時間でホールで行う。参加できないスタッフには送りノートや会議録で共有しあっている。			○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	申し送りノート、送り、等利用者の様子、情報、家族とのやり取り等、日誌も含めて伝わるようにしている。	◎		○	申し送りノートや経過記録などの日常に関わる様式を活用して、情報伝達をしている。また、家族と連絡を取り合った場合には、特記事項に記載し、職員間で共有をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	すべての利用者に毎日対応は出来ないが、極力努力はしている。				レクリエーションや体操への参加の有無、掃除の手伝いなど、様々な生活の場面で、職員は声をかけ、利用者自らが選択できるようにしている。利用者から「編み物をしたい、掃除や家事を手伝いたい」などの希望が出され、日々の生活の中で、自然な家事などが行われている。また、重度な利用者には、職員が選択しやすいような声かけを行うとともに、誘導する場合にも、利用者の表情や身体の不ずかな動きなどから、思いや意向をくみ取るよう努めている。利用者中心の生活が送れるように、職員は私語を謹み、会話が弾むように心がけている。さらに、利用者の活躍されていた頃の話題を提供したり、「知らないことを、教えてほしい」とお願いしたりすると、利用者の生き生きとした表情が見られるなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。マッサージやクリームなどを付ける場合には、急に足をさわらず、声をかけてから、優しく足を触るなど、申し送りノートの記録からも、利用者を大切に考えた支援が行われていることを確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクや体操、掃除手伝いへの参加の有無など確認している。			◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者の状況に合わせて働きかけている。それぞれの生活リズムを崩さないようその方に応じた対応をしている。				
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	嬉しいと思える事や好きなことを把握して、やりがいを感じて頂けるよう努めている。			◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情、言動、生活歴などから本人の意向を把握できるよう努めている。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	利用者の人権、尊厳、プライバシーを守る研修に参加し、声掛けや態度に注意している。	◎	○	○	日々の生活の中で、職員は利用者のプライバシーに配慮し、さりげなく声をかけてトイレ誘導をしたり、居室の入退室時に、利用者に声をかけて事前に確認したりするなど、気を配りながら意識した対応をしている。また、利用者の呼称は、人生の先輩としての敬意を持ち、「ちゃん付け」で呼ばないようにしている。さらに、寝たきりの利用者のおむつ介助時に、扉が開いていないかなどの行動や態度にも、職員同士で気を配り、注意喚起をしている。加えて、職員会議の中でも、職員間で人権や尊厳、プライバシーなどの話し合いが行われている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	安全に気を付けてプライバシーに配慮している。				
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際にはノックして本人に許可を得ている。			○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	同意書を会社と交わっており、利用者の事を外部に漏らさないよう注意している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	地区の祭りや行事ごと等、教えてもらったり手伝いをして頂く上で感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	同じテーブルに座った利用者で、言い合いなどのトラブルが起こりそうになった場合には、職員はすぐに席替えをすることなく、「席を変ってみますか」と利用者へ声をかけ、気持ちを聞いて確認した上で様子を見ている。また、自室に他の利用者を招き入れて、おやつを渡すなど、仲の良い利用者もいる。さらに、落ち着きがなく、動こうとする利用者がある場合には、他の利用者が、「一緒におろや」と声をかけて、その場に居続けるなど、職員が助けられることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声掛け合ったり手伝いをするのが大切であることを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者の関係性を把握し、トラブルが回避できるよう、テーブル席やソファ席の配慮をしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者により不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず間に入り双方の意見を聞き、不安や不満が大きくなりすぎないようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所前の調査や、本人、家族より情報収集し把握している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていたりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	なじみの場所に花見に行ったり、知り合いの方と話を楽しくしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	過ごしやすい季節には散歩をしたり、外でお茶会をしている。	○	△	◎	「ズボンを買に行きたい、乾電池が欲しい」などの希望が出された場合には、近隣にある商店街に、職員は利用者と一緒に買い物に出かけている。車の手配の都合もあり、全ての利用者が一緒に外出することまではできないが、順番に外出できる機会を設けている。また、隣家には立派な和風庭園があり、重度な利用者も一緒に出かけ、散歩を楽しむこともある。コロナ禍が続いていた中でも、事業所周辺の環境を活かして、隣の庭を借りて、お茶会や桜を見ながら弁当を食べることもできていた。中には、日課にしている朝の散歩に、タスキをかけて、職員と一緒に出かけている利用者もいる。さらに、家族から出された外出希望にも、職員間で検討を行い、可能な限り、希望に沿えるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出時、地域の人、ボランティア、サポーターの協力は得ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症の研修に参加し、勉強会で理解に努め、不穏等軽減出来るよう努めている。	/	/	/	「私のできることで、できないこと」シートを活用して、一人ひとりの利用者の状況を把握し、できることは自分でしてもらうとともに、事前に準備するなどの環境を整え、できそうなことをしてもらえるような支援に努めている。髭剃りや洗濯物たたみなど、職員は見守りを行い、口や手を出しすぎないようにしている。また、乾燥された衣類は、利用者自らが仕分けをしてタンスに片づけるようになっている。さらに、体操や散歩のほか、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能維持が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	情報は職員全体で把握しており、日々の変化を常に報告し合い、体操やレク、個別の運動等を通じて維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	出来ることは安全に配慮しながら手を出さず見守り、自分の役割を考えている気持ち大切に对应している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	それぞれの利用者の出来る事や役割を把握し、その場面を作るよう努めている。	/	/	/	基本的に、利用者には自由に動いて、生活を送ってもらっている。重度の利用者には、好きなレクリエーションを個別に実施し、職員は声をかけながら、じゃんけんや輪投げを精一杯楽しむ利用者の姿を見ることができた。また、気分転換が図れるように、敬老会やクリスマス会、運動会などの行事を開催している。さらに、自分で洗濯物をたたんで、タンスに片付けてもらったり、調理の下ごしらえや後片付けを日課にしている利用者もいる。中には、ロビーにある日めくりカレンダーの日付けを、毎日変えることを役割とする利用者があるなど、少しでも出番や役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	◎	1人ひとりのレベルに合った作業をして、喜びや生きがいを見出して頂くよう支援している。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	本人が着たい服を尊重し、季節に合っていない時は声を掛ける。	/	/	/	起床時に、自分で洋服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。また、職員は声をかけ、着る服をできるだけ選択してもらえるよう支援している。整容の汚れや服装の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、「髪を切りたいな」と希望する利用者もあり、訪問内容を活用して、好みの整髪に整えてもらっている。中には、理解がうまくできず、散髪や整容に抵抗のある利用者もいるが、職員は声かけやタイミングを上手に工夫して誘導するなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	居室内では本人の持ち物は本人が管理し、好みに応じての整え方になっている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者が不安な時は話を聞き、どうしたらいいかを一緒に考える。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	季節に合わせた服装が出来るように支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	モーニングケアを声掛けし、身だしなみの手伝いをする。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	コロナにより、数年前より施設に美容師さんに来てもらっている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	寝たきりであっても身だしなみや清潔が保てるよう支援している。	/	/	/	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	利用者にとって食事は一番の楽しみであると理解している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食器の片づけ、お盆拭きなど出来る作業は利用者と一緒にやっている。	/	/	○	契約業者から食材を届けてもらい、利用者に調理の下ごしらえや後片付けなどを手伝ってもらい、職員がアレンジをしながら調理や盛り付けをしている。献立は、業者の栄養士が考えた栄養バランスの取れたものになっている。アレルギーや苦手な食材がある場合は、代替えの食材を用意したり、別の味付けにしたりするなどの対応をしている。利用者の状況に応じて、刻みや一口サイズなどの食の形態にも対応するとともに、状況により、ミキサー食などを業者に手配してもらうこともある。また、月2回程度の業者の配達を止めて、利用者の好みのメニューを聞いて調理して提供するとともに、誕生日には、事前に利用者に食べたい物を聞いて提供をしている。配達を止めた場合等の食材は、地元の商店街で購入するとともに、近隣住民等から野菜やゆずなどの差し入れをもらい、食卓に上ることもある。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策や働き方改革もあり、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、利用者の近くに座って、見守りや声かけ、食事介助をしている。利用者がほとんど食べていない場合には、職員が寄り添って食事介助をしたり、おにぎりなどを用意したりすることもある。さらに、日々の食事の摂取量を確認するとともに、必要に応じて、調理方法や味付け、食の形態などを、職員会議の中で話し合いをしている。加えて、食事量の低下など、利用者に変化が見られた場合には、医師と訪問看護に相談を行い、適切な対応をしている。
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	野菜の皮剥ぎや片付けなど、毎日の自分の仕事と考え、楽しみにしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者の苦手な食べ物を共有し、調理方法などに工夫している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	季節の野菜を材料とし、旬の食材を使い、食事中には昔の献立の話などをする。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の身体機能に合わせて、小さくカットしたりトロミをつけたり工夫しながら誤嚥に気を付けている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	軽くて割れにくい食器を使用し、箸は色分けして本人のものと分かりやすくしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食卓に寄り添い、ゆっくり食べられるように見守り、水分が摂れるように声を掛けている。	/	/	○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	食事が全介助の利用者には、食事中には声を掛け、献立の説明をしながら食べて頂く。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	利用者の体調に応じて、食べやすい量や調理方法を工夫し、水分チェック表で確認している。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分の取れにくい利用者にはトロミを使用したり食事中に声を掛け水分が摂れるように取り組んでいる。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスはないが、同じメニューが続かないよう工夫している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は毎日消毒し、清潔を心掛けている。食材に関しても使用日の日付を入れ管理している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修に参加し、十分理解している。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。歯科医の定期往診までではないものの、毎週月曜日を口腔チェックの日と決め、職員が全ての利用者の口腔内の状況の確認をしている。また、義歯は夜間に預かり、洗浄をするなどの清潔保持に努めている。さらに、歯科受診で指導を受けながら、適切な口腔ケアに努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に付き添うため、概ね把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診の際、歯科医の助言や研修にて口腔ケアに活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯ブラシで洗浄し、夜間は義歯洗浄剤に浸け支援している。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、口腔内を確認し、必要時には歯科受診している。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。トイレでの排泄を出来る限り支援している。	/	/	/	事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるよう支援している。中には、声かけやトイレ誘導することにより、布パンツで生活を送ることができている1名の利用者もいるが、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。中には、夜間にポータブルトイレを使用する利用者もいる。軟便剤や下剤を服用している利用者がいるものの、朝のラジオ体操や水分摂取を心がけ、自然な排泄を促すとともに、排泄のトラブルが減少している。また、おむつやパッド類は、事業所でまとめて購入し、各利用者の居室に保管をしている。また、利用者の状況に応じて、適切な排泄用品が使用できるように、職員間で検討をしている。さらに、汚染物をペラランダに出して置いておくことで、事業所内にいやな臭いが残らないように工夫をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄チェック表を利用し、パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	排泄状況により見直しを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	水分量、食事量、薬等の可能性を確認し、場合によっては協力医への相談等を行い、改善に努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表や日頃のパターンに合わせて実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	全員に対しては行っていないが、相談して選んで頂く事もある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	本人の使いやすい物や、尿量等に応じて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	1日の水分量、繊維の多い食材の接種、ヨーグルトや運動等も取り入れている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	利用者の希望日に入浴できるようにはしていないが、温度や長さ、順番等には対応している。	◎	/	○	週2回、利用者が入浴できるよう支援している。「毎日入浴したい」という希望が出された場合には、対応可能としているが、利用者の重度化が進行し、曜日により、入浴の対象利用者を決めざるを得ない状況となっている。また、利用者と職員の1対1の入浴時に、よく会話が弾むほか、浴室から歌声が聞こえるなど、楽しみのある入浴支援にも繋がっている。必要に応じて、入浴後には、保湿クリームの塗布も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	ユニットバスなので、他者に気兼ねなく入浴で来ている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	状態に応じて、安心安全に配慮して入浴出来るよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けを複数回に分けたり、声掛けの内容を工夫し、無理なく自然に入浴出来るよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック、健康観察を実施し、入浴後も確認している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者申し送り等にて把握出来ている。				生活習慣や希望から、夜間にパジャマなどに更衣をせずに寝る4名の利用者もいる。中には、夜間にズボンだけ履き替える利用者もいるが、定期的に着替えてもらうなどの清潔保持にも努めている。また、夜間に寝つきの悪い利用者には、精神科医に相談し、眠剤などの服薬をしている数名の利用者もいる。現在、不眠の利用者はいないが、夜間に目が覚めた場合には無理に眠ってもらうことなく、お茶を進めたり、会話をしながら見守りをしたりするなどの対応をしている。さらに、かけ布団や毛布などの寝具は、使い慣れた物を持ち込んで、使用している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	心配事がある場合は傾聴し、日中の活動を増やしたりして不安の軽減に努めている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	安全を確保し、本人が納得出来るよう過ぎて頂けるよう努めている。そのための薬剤を増やさないよう対応している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝や休みたいときに休めるよう取り組んでいる。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人が希望したり、連絡の必要性を感じた場合は電話して話して頂くよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	年賀状など、シールを貼ったり名前だけでも書いて頂いたりして気持ちを込めて作成し、届けるよう支援している。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持っている利用者は自由に連絡されている。他の利用者も電話したい等の希望があればかけるよう支援している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙は本人にお渡しし、その後家族にも伝えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要時には家族に協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人がお金の所持をしている方はいないが、使うことの意味や大切さは理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	自分の目で見え選ぶ楽しさは理解している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一時的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族の方と相談し所持している方もあり、出かけた時に買い物したり、買い物レクの時は預り金で買ってもらっている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人の希望通りになっている。本人、家族、施設で確認、報告をしているが、毎回は行っていない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	面会時には出納帳、領収書を確認して頂き、確認印を頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族が対応出来ない病院受診等は対応している。	◎		○	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で対応をしている。家族の病院受診の同行支援ができない場合には、職員が対応することもある。また、利用者の買い物の依頼に対応するほか、ズボンの長さや調整、衣類の繕いなど、事業所内で得意な利用者や職員が対応することもある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	季節ごとの花の植え替えをし、玄関の掃除を行い、見かけたら挨拶や声掛けをしている。	◎	○	○	玄関先には、気軽に座ることのできるベンチやスロープが設置されている。地域の花き農家から花が届けられ、靴箱の上に飾っている。また、広々としたエントランスは、来訪者が過ごしやすい空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	掃除を心掛け、季節に応じた展示物などで心地よい空間を作っている。	○	○	○	リビングの窓から、隣家の整備された立派な和風庭園のほか、紅葉などの四季折々の景色を眺めることができる。玄関エントランスには、季節を感じる置物や利用者と一緒に作成した作品が飾られている。洗濯物は、テラスや脱衣場等に干され、利用者もハンガーに掛けることなどを手伝いしている。また、共用空間の整理整頓が行き届き、換気や清掃も行われ、快適な空間となっている。さらに、2階には畳スペースがあり、車いす利用者が多いこともあり、収納のとしてリメイクで使用されている。加えて、ダイニングセットのいすと別に、ソファやいすが用意され、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。廊下には、外出した際に撮影した桜などの花を見に行つた写真が飾られている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除や消臭剤、簾等を使用している。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	節句人形、クリスマスツリー、正月飾りなどを見て感じて頂く。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	入居者同士で居室の行き来もあり、自分自身の意思決定で過ごされている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	テレビ、座椅子、座布団等使い慣れたもので居室内、施設内を過ごしてもらっている。	◎	/	◎	居室には、利用者の馴染のある物を持ち込むことができ、花の写真や座り慣れたリクライニングチェアを持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。中には、携帯電話を持参して、家族と連絡を取り合う利用者もいる。また、自らが居室内を清掃をすることもあり、居室内に雑巾を干している様子を見ることもできた。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室前に名札を付け、共有スペースのトイレや浴室前にも表示している。	/	/	/	○ 利用者は、事業所内を自由に動くことができ、リビングに出て日向ぼっこをしたり、新聞や広報紙を読んだりしている。中には、ウエスを渡すと、窓ふきをしてくれる利用者もいる。また、利用者が自分の居室を認識しやすいように、分かりやすく名前を表示している。さらに、1階の畳スペースにはマシンや歌本が置かれ、カラオケの機材や雑誌などを手の届く場所に配置するなど、生活の場で、暮らしやすい雰囲気づくりも行われている。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	ホール内に雑誌置き棚、ほうき、アルバムなど置き、誰でも手に取れるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	拘束の研修も施設内で行い、全員参加している。日中はカギをかけていない。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることによる利用者へのマイナスの影響をよく理解している。家庭と同じ感覚で過ごしてもらえようように、日中に玄関の施錠はしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、外に出たい利用者には、職員が付き添って事業所周辺を散歩をしたり、話を聞いたり、家族に外出支援をお願いするなどの対応をしている。利用者の安全面を考えて、「鍵をかけてほしい」という家族からの要望が出された場合には、理解していただけるように職員から丁寧に説明をするようにしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	鍵を掛けていないことに対して家族から不安視する声はないが、あれば理解して頂けるよう話し合う予定。	/	/	/	
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	事前調査情報の共有、新しい情報について、送りやノートにて確認している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日バイタルチェックし確認し、介護記録、身体状況に記録している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	定期的な訪問看護師や協力医に気軽に相談出来る関係であり、入院につなげる等している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医はいるが、希望があれば受診できるようにしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	往診時にかかりつけ医と顔を合わせ、話をして良い関係が築けて支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	体調変化、受診の相談など、すぐに連絡し合意を得られている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	相談員や看護師と連携を取り、情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に相談員と情報交換している。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	情報や気づきをかかりつけ医や訪問看護師に伝えて支持を受けている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも24時間連絡出来るような体制を設けている。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	早期発見し変化が生じたら適切な治療を受けられるよう支援している。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤情報がいつでも確認でき理解している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回の服薬に3段階で確認し、誤薬がないよう、また、飲み忘れを防ぐ体制をとっている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	常に表情、行動、言動、体調など確認している。	/	/	/	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に説明しているが、状態変化に応じて家族と話し合い、意向を確認し方針を共有している。	/	/	/	事業所には、「ひとり介護指針」があり、入居時に家族等に対応できることなどを説明をしている。往診医や訪問看護との連携が図られ、看取り介護を可能としている。また、重度化の対応や終末期には、家族等に意向を確認するとともに、医師や看護師などの関係者を交えて、チーム体制で話す機会を設けることにより、利用者や家族等の不安の解消に繋げている。さらに、終末期を迎えた家族は、コロナ禍の中でも、感染対策を講じた上で、事業所内に宿泊してもらうなどの対応をしている。さらに、認知症状が進化した利用者もいるため、積極的に認知症の勉強会を実施し、職員の理解促進にも繋げている。加えて、山間部に設置されている事業所の特性もあり、要介護4以上の利用者の割合が多く、今後も、終末期の対応や看取り介護の勉強会を継続して実施していくことも期待される。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員や協力医療機関にもきちんと伝え、方針を共有している。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフにある看取りの不安等について理解し、また、力量を把握している。支援の見極めを行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	丁寧に伝えることを心掛け、説明に当たり理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族の要望も取り入れ、変化の都度職員で話し合い、相談、対応等を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	気持ちに寄り添えるよう努めている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染対策の研修会に参加し、予防、早期発見、対応に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成している。感染対策キットを準備しており、素早い対応が出来るようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	ニュースやネット、行政からの情報を確認している。	/	/	/	
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるように支援している。	○	出勤時に手洗い、うがい、検温を実施し、来訪者にも手指消毒やマスク着用して頂いている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の状況を把握し、面会時に家族と情報交換や意向の確認を行い関係性を築いている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は自粛をしている。毎月発行するもみじ便りを活用して、利用者の様子のほか、事業所の行事や出来事、職員の入退職などを知らせている。面会に来られないご家族には、電話連絡時に説明することもあるが、定期的に連絡することはできていないため、今後は、訪問が難しい家族との連絡方法を検討したり、定期的に情報共有できる機会を設けたりすることも期待される。また、高齢の家族も多く、オンライン面会の対応は、稀にしか行われていないが、対面での面会が行われるようになっていく。中には、頻りに手紙で連絡を取り合う家族もいる。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍でまだ行事は行っていないが、運営推進会への参加はある。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月「もみじ便り」を発行し様子を伝えたり、写真を載せ近況を伝えている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者の近況に関してはきちんと伝えるが、そのことで家族が気兼ねしないよう言葉使いや対応に注意している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	月1回、お便りを発行して様子報告をしている。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクを説明し、それに対する今出来る対応策も備えて説明し、家族の意見も頂くようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	スタッフ、あるいは管理者が対応し、意見、要望、相談の確認をしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入所時に具体的な説明を行い納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	納得いく退居先に移すことが出来るよう支援している。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	設立時に説明会を行っている。月1回「紅葉だより・地域版」を送っている。	/	○	/	コロナ禍が続き、地域との交流できる機会は少なくなっている。事業所の近隣には小学校があったが、統廃合で遠方となり、交流がなくなっている。地元に住む職員が多く、山間部の地域で利用者同士だけに留まらず、職員と顔見知りや知人の利用者がいるなど、事業所の中に、小さな地域が築かれた状況にもなっている。また、近隣の農家から花や野菜の差し入れをもらったり、隣家の立派な庭園を借りて、花を見ながら弁当を食べたりするなどの交流は行われている。加えて、コロナ禍や感染対策が続き、4年間中止されていた令和5年に地域の秋祭りや行事が開催され、獅子舞や亥の子で子どもたちの来訪もあり、とても利用者には喜ばれている。事業所から地域に向けて、一軒一軒にポスティングをして事業所便りを配布し、情報を発信している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶はもちろん、近所の方が野菜や花を持って来て下さる。お祭り時には来て頂いており、関りを持っている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩中、よく声を掛けて下さっている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	外での作業中やベンチに座っている時は、よく声を掛けて頂いている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	外を散歩している入居者を見ると手を振ったり、笑顔で挨拶して頂いている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	コロナ前は、地元の子どもと一緒に行事を行ったり、祭りにはホーム内に獅子舞いに来て頂いていた。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地元の店舗の協力で、買い物が出来たり、地元的美容室の方に来てもらい散髪も行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	声掛けし、全員ではないが参加して頂いている。	○	/	○	運営推進会議は、書面開催が続いていたが、令和5年5月から徐々に集合形式の会議が開催できるようになってきている。また、参加メンバーや家族に、管理者等は声かけをしているが、決まった家族や担当者、地域住民等の参加に留まっている。会議の参加者からは、「地域に対して、利用者の受け入れを含めて、良くしてもらっている」という意見も聞かれる。今後は、より多くの参加協力を得た会議が開催されるように、継続して呼びかけをするなど、工夫された取り組みが行われていくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	説明と報告をしている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	ホームの行事時に合わせることもあり、時間帯も配慮している。	/	/	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	玄関やホール内の廊下に貼っており、理念に基づき取り組んでいる。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	目につきやすい場所に貼っている。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	月1回のスタッフ会には研修報告を必ず行っている。	/	/	/	不定期に、管理者は職員との個別面談を実施し、意見や要望を聞いている。また、勤務体制の考慮や職員配置の調整を行うなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、法人内には、福利厚生等のための「ゆうゆう会」が設置され、職員同士で食事会を実施するなど、交流を図る機会も設けられている。加えて、研修参加を促して、職員のスキルアップに努めるとともに、介護福祉士などの資格取得の支援も行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修への参加や問題などを、スタッフ会時に相談し合う。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	評価シートで評価出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービ協会への加入等の取り組みがある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	情報を共有しながら取り組んでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	虐待や不適切なケアが行われないう、虐待防止法について理解し、注意している。研修、勉強会にも参加している。	/	/	○	職員は研修等で学び、虐待や不適切なケアに該当する行為を理解している。不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、必要に応じて、その場面の話し合いをするようにしている。事業所全体で内容共有が必要な場合には、管理者に相談を行い、該当職員に確認して指導や注意喚起をするとともに、職員会議等の中の事例に取り上げて、話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎日、気になる時に話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者との会話や言動に気を付け対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修や介護に参加し理解している。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	研修やスタッフ会議にて話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	必ず家族に説明し、理解して頂くよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	制度について学び、必要時には情報提供や相談に乗る体制が出来ている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要時にはすぐに連携できる体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生時のマニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署の指導を受けたり、研修会に参加して再確認を行っている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告、ヒヤリハット報告について、毎月の職員会で検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	その都度、また職員会などで検討し、事故防止の取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成して周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って速やかに対応するようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は迅速に対応し、納得が得られるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	入居時に相談窓口について説明するとともに、普段から要望や苦情を言いやすい関係作りを心掛けている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようになっている。物価高騰等もあり、令和5年12月から事業所の利用料等が値上げされることになり、家族から異議が出されたが、管理者等が事情を丁寧に説明した上で、法人本部に報告する対応を行い、その後家族は納得されている。また、日頃から、職員は管理者と気軽に会話をすることができ、相談にも応じてもらっている。職員から出された提案は、月1回開催される法人のブロック会の中で伝えることもでき、検討も行われている。
		b	契約当初だけでなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	相談があれば情報提供を行っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	定期的な訪問はしていないが、要望や意見は伝えやすい環境にある。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	スタッフ会や日々の支援の中で、その都度意見や提案を聞き、ともに利用者本位の支援が出来るよう検討している。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	意義や目的を理解し、全員で自己評価に取り組んでいる。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者やユニット長が取りまとめて作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告し、参加の有無に関わらず、会議の参加メンバーや全ての家族に議事録を送付している。会議は書面開催が続いたこともあり、利用者家族等・地域アンケート結果から、サービス評価の取り組みに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、集合形式の会議の中で、サービス評価の意義や目的を説明したり、モニターのあり方や報告の方法を検討したりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	実現可能な目標を立て、達成に向けて全体で取り組んでいる。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	○	運営推進会議にて今後の取組みに関して経過を見て頂いている。	×	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	スタッフ会や運営推進会議にて確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成し、周知している。	/	/	/	事業所では、災害マニュアルを作成し、年2回火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施している。コロナ禍が続いてこともあり、地域とのネットワークを活かした合同訓練のほか、災害支援体制の構築までには至っていない。管理者は、BCP(事業継続計画)の策定にあたり、地域住民から情報収集を予定しており、早期に計画が策定されることも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	マニュアルに基づき、日動タイや夜間帯想定での訓練を行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備や非常用品の点検を定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署には訓練に参加して頂き講評してもらおうようになっているが、地域住民や他事業所の参加はない。	○	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害を想定した市町の訓練の参加や、災害時に協力頂く介護施設はあるが、共同訓練は行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	2か月に1回、「紅葉だより」を自治会で配布し、情報発信をしている。	/	/	/	地域住民から、電話等で事業所に相談が寄せられた場合には、関係機関に繋ぐなど、適切に対応をしている。また、管理者は内子町グループホーム連絡協議会に参画し、地域へ向け情報発信するとともに、情報共有をする機会に繋がっている。感染対策もあり、協議会が行う運動会には、参加できていない状況が続いている。また、近隣住民に対して、事業所便りのポスティングを行い、情報を発信している。以前は、事業所で「もみじ祭り」を開催し、地域住民や家族にも参加協力してもらおうことができていた。管理者は、もみじ祭りの開催予定まではしていないが、「事業所で、手作りの作品等を展示したい」と考え、代替となるより良い企画を開催するなど、地域のケア拠点としての機能を発信していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば対応する。入居見学や問い合わせがある時は行っている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	コロナ禍のため開放していない(以前はカフェを開いて開放していた)。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍のため受け入れしていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	内子町グループホーム連絡会に参加して情報共有している。今後も協働しながら地域活動を行っていく予定。	/	/	○	

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 16名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3893600035
事業所名 (ユニット名)	グループホーム紅葉の里・おだ かえで
記入者(管理者) 氏名	土岐 仁美
自己評価作成日	令和5年10月31日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 家庭的な雰囲気の中で自分らしい生活が続けられ、笑顔で毎日が過ごせるホームを目指します。第二のふるさとと思っただけのように暖かいも一つの家族を作っていきます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 地域における災害対応の連携が段階的に構築出来る。内子町の土砂災害避難訓練に参加し、車椅子利用の利用者が多い為地域の方の協力が必要だが、日頃からの連携や、合同での訓練などの体制ができていないため、運営推進会議にて、地域の避難訓練の様子やBOPの作成について一緒に検討している。紅葉便りに防災コーナーを設けて伝える。 地域住民の方にグループホームにおいても、介護相談支援が行える事を知って頂く。 いまだ、コロナの増減が、続いており、以前行っていた紅葉カフェの再開が出来ていないが、時々電話等で聞かれる時もあり対応している。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 紅葉(もみじ)の里という名前の通り、秋に訪れるとなんとも懐かしい景色の広がる内子町小田の山間地域に事業所は立地している。リビングの窓から、利用者等は四季の移り変わりや日々の天気を感じやすくなっている。隣家には立派な和風庭園があり、利用者は室内から素敵な庭の景色が眺められるようになっている。また、地元に住む職員が多く、利用者にとって自宅にいるような感覚で生活を送ることができ、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、職員や利用者との良好な関係が築かれ、会話が弾むほか、穏やかで安心して居られる環境にも繋がると、温かくてのんびりと自由に過ごすことができている。加えて、限られる介護サービスの地域性から、グループホームでの生活が長くなり、身体の重度化が進む中で、職員は利用者へ寄り添うことを大切に支援に努めている。令和5年5月に新たに就任した管理者を中心に、食事を沢山摂って、笑うことで精神が安定し、健康維持を図るために、利用者自らのできることを重視した支援にも取り組んでいる。</p>
---	---	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1) ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	◎	常に利用者の気持ちがわかるような声掛けをしている	○	/	◎	日々の生活の中で、職員は利用者への声かけの工夫をしながら、「どうしていきたいのか」などの思いや暮らしの希望を聞くよう努めている。中には、日課にしている朝の散歩に、タスキをかけて、一人で行ける利用者もおり、入居から時間が経過した現在は、職員と一緒に散歩に出かけるようになっている。また、コロナ禍や感染対策が続いていた中でも、利用者から強い希望が出され、一時帰宅の支援に対応したこともある。さらに、新たに知り得た情報は、アセスメントシートに追記するなど、記録に残すことができている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	他のスタッフの意見を聞いて支援に努めている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時に確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気持ちシートの活用などで共有し記録している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	会話を通じてスタッフ間で話し合いをしている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時の情報や家族さんの話などでスタッフ全員で共有している	/	/	○	入居時に、職員は利用者や家族から生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き、情報を収集している。また、兄妹や友人の面会時にも、大切にしていることや今までの生活の様子などの聞き取りをしている。さらに、病院や介護サービス事業所の関係者等から情報提供してもらうこともある。加えて、知り得た情報は、アセスメントシートや申し送りノートなどに記載し、職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	日頃の生活の中で観察し話し合い把握している	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	申し送りや介護記録などで把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その場で話し合ったりカンファレンス等で検討している	/	/	◎	カンファレンスには、全ての職員が参加し、課題などの話し合いをしている。利用者の生活や習慣の背景が分かりやすいセンター方式のアセスメントシートを活用して、D-1「私のできること、できないこと」シートや、D-2「私のわかること、わからないこと」シートに、把握した情報を分かりやすく取りまとめて記載し、日々の支援に繋げている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	本人との話やスタッフ間で話し合い把握に努めている	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人や家族に聞いて作成している	/	/	/	介護支援専門員が、利用者や家族から意見を聞くほか、医師や訪問看護などの関係者から指示やアドバイスをもらい、生活情報や把握した情報をもとに、介護計画を作成している。家族が面会に来られた際に、計画の説明を行い、同意をもらっている。また、「高校野球や相撲の観戦を楽しみたい」という利用者の意見が出され、アイデアを計画の中に盛り込んだ事例もある。さらに、事業所から出ていこうとする利用者の対応方法を計画に入れることもある。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	カンファレンス等で話し合い、本人や家族に意見を聞いてアイデアを反映し作成している。	○	/	◎	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	穏やかにその人らしく施設生活が送れるような内容になっている	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族や地域の方の協力が得られるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	いつでも見られるようにしている。	/	/	◎	各ユニットに個別のケース記録が置かれ、職員は確認できるようになっている。職員は介護計画の内容を手軽に見て、経過記録を記載できるように、専用のファイルを用意している。また、申し送りノートや会議の議事録の内容が変更された場合には、変更内容を記録に残している。さらに、計画の目標やサービス内容には、項目ごとに番号が付けられ、モニタリングや評価を行いやすいよう工夫されている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	介護記録などに記録し、状況を確認しながら支援につなげている。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	定期的に行い、状況が変わればその都度行っている。	/	/	◎	介護計画は、6か月に1回見直しをしている。利用者ごとの担当職員と介護支援専門員が、情報収集や見直しの計画案を取りまとめて、職員間でカンファレンスを実施している。また、担当職員を中心に、モニタリングを行い、短期目標ごとに5段階評価を行うとともに、特記事項の欄に必要事項を記載することができている。新たな要望がない場合でも、「私の気持ちシート」を作成することで、隠れた要望に気づきやすいようにしている。さらに、状態の変化等が見られた場合には、利用者本人の置かれている背景要因の確認やアセスメントをして見直しを行い、新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングで確認している。	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	変化のある場合は家族に報告しスタッフ間で話し合い見直しを行い新たな計画を作成している。	/	/	◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回の会議で話し合い、緊急案件がある場合はその都度話し合い、記録を残している。	/	/	○	ユニットごとに、月1回職員会議やカンファレンスを実施し、管理者とユニット長が1階と2階に分かれて参加をしている。職員が会議に参加しやすいように、事前に日程調整を行い、夕方の時間帯に会議を実施している。また、会議に参加できない職員には、会議の議事録を確認してもらおうとともに、会議の後で意見を出してもらうなどの工夫をしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	スタッフ全員が意見を出せるような雰囲気作りをしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	全員が参加できるように夕方の時間帯で行い、参加できないスタッフには送りノートや会議録で共有している。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送りノート、送り等で、利用者の様子、情報、家族とのやり取り等、日誌も含めて伝わるようにしている。	◎	/	○	申し送りノートや経過記録などの日常に関わる様式を活用して、情報伝達をしている。また、家族と連絡を取り合った場合には、特記事項に記載し、職員間で共有をしている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	すべての利用者に毎日対応は出来ていないが、極力努力はしている。	/	/	/	レクリエーションや体操への参加の有無、掃除の手伝いなど、様々な生活の場面で、職員は声をかけ、利用者自らが選択できるようにしている。利用者から「編み物をしたい、掃除や家事を手伝いたい」などの希望が出され、日々の生活の中で、自然な家事などが行われている。また、重度な利用者には、職員が選択しやすいような声かけを行うとともに、誘導する場合にも、利用者の表情や身体の不確かさなどから、思いや意向をくみ取るよう努めている。利用者中心の生活が送れるように、職員は私語を謹み、会話が弾むように心がけている。さらに、利用者の活躍されていた頃の話題を提供したり、「知らないことを、教えてほしい」とお願いしたりすると、利用者の生き生きとした表情が見られるなど、楽しみのある生活が送れるよう支援している。マッサージやクリームなどを付ける場合には、急に足をさわらず、声をかけてから、優しく足を触るなど、申し送りノートの記録からも、利用者を大切に考えた支援が行われていることを確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくる。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	レクや体操、掃除手伝いへの参加の有無など確認している。	/	/	◎	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	それぞれの利用者に合わせている。生活のリズムを崩さないようその人に応じた対応をしている。	/	/	/	
		d	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	嬉しいと思える事や好きなことを把握して、やりがいを感じて頂けるよう努めている。	/	/	◎	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情、言動、を見て本人の意向を把握出来るよう努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	利用者の人権、尊厳、プライバシーを守る研修に参加し、声掛けや態度に注意している。	◎	○	○	日々の生活の中で、職員は利用者のプライバシーに配慮し、さりげなく声をかけてトイレ誘導をしたり、居室の入退室時に、利用者に声をかけて事前に確認したりするなど、気を配りながら意識した対応をしている。また、利用者の呼称は、人生の先輩としての敬意を持ち、「ちゃん付け」で呼ばないようにしている。さらに、寝たきりの利用者のおむつ介助時に、扉が開いていないかなどの行動や態度にも、職員同士で気を配り、注意喚起をしている。加えて、職員会議の中でも、職員間で人権や尊厳、プライバシーなどの話し合いが行われている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	安全に気を付けてプライバシーに配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室の際にはノックして、本人の許可を得ている。	/	/	○	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	同意書を会社と交わっており、利用者の事を外部に漏らさないように注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	地区の祭りや行事、歌などを教えてもらったり、手伝いをして頂く上だ感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	同じテーブルに座った利用者で、言い合いなどのトラブルが起こりそうになった場合には、職員はすぐに席替えをすることなく、「席を変ってみますか」と利用者に声をかけ、気持ちを聞いて確認した上で様子を見ている。また、自室に他の利用者を招き入れて、おやつを渡すなど、仲の良い利用者もいる。さらに、落ち着きがなく、動こうとする利用者がある場合には、他の利用者が、「一緒におろや」と声をかけて、その場に居続けるなど、職員が助けられることもある。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士が声掛け合ったり手伝いをする事が大切であることを理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者の関係性を把握し、トラブルが回避出来るようテーブル席やソファ席の配慮をしている。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	必ず間に入り双方の意見を聞き、不安や不満が大きくなるように努めている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人に聞いたり家族より情報収集している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナもあり合うのは難しいがなごみの場所へ花見に行ったり知り合いの方と話を楽しくしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	ホーム周辺の散歩をしたり外でお茶会をしている。	○	△	◎	「ズボンを買に行きたい、乾電池が欲しい」などの希望が出された場合には、近隣にある商店街に、職員は利用者と一緒に買い物に出かけている。車の手配の都合もあり、全ての利用者が一緒に外出することまではできないが、順番に外出できる機会を設けている。また、隣家には立派な和風庭園があり、重度な利用者も一緒に出かけ、散策を楽しむこともある。コロナ禍が続いていた中でも、事業所周辺の環境を活かして、隣の庭を借りて、お茶会や桜を見ながら弁当を食べることもできていた。中には、日課にしている朝の散歩に、タスキをかけて、職員と一緒に出かけている利用者もいる。さらに、家族から出された外出希望にも、職員間で検討を行い、可能な限り、希望に沿えるよう支援している。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出時、地域の人、ボランティア、サポーターの協力は得ていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	認知症については研修や勉強会で理解しようと努め、スタッフ間でも話し合っている。	/	/	/	「私のできることで、できないこと」シートを活用して、一人ひとりの利用者の状況を把握し、できることは自分でしてもらうとともに、事前に準備するなどの環境を整え、できそうなことをしてもらえよう支援に努めている。髭剃りや洗濯物たたみなど、職員は見守りを行い、口や手を出しすぎないようにしている。また、乾燥された衣類は、利用者自らが仕分けをしてタンスに片づけるようになっている。さらに、体操や散歩のほか、家事などの生活リハビリを取り入れ、利用者の心身機能維持が図れるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者の体調変化に注意してレク等の身体の動きにも注意している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者の出来る事、出来るようなことは、安全に配慮しながら見守り、一緒に行うようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	それぞれの利用者が出来る事や楽しみを見つけて支援している。	/	/	/	基本的に、利用者には自由に動いて、生活を送ってもらっている。重度の利用者には、好きなレクリエーションを個別に実施し、職員は声をかけながら、じゃんけんや輪投げを精一杯楽しむ利用者の姿を見ることができた。また、気分転換が図れるように、敬老会やクリスマス会、運動会などの行事を開催している。さらに、自分で洗濯物をたたんで、タンスに片付けてもらったり、調理の下ごしらえや後片付けを日課にしている利用者もいる。中には、ロビーにある日めくりカレンダーの日付けを、毎日変えることを役割とする利用者があるなど、少しでも出番や役割を担ってもらえるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者一人一人の楽しみや役割、出番等が出来るよう場面を作って楽しめるよう努めている。	◎	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣服や髪形は自身で決めており、それが出来ない方に関しては一緒に選び決めて頂けるよう支援している。				起床時に、自分で洋服を選んで着替え、身だしなみを整えることのできる利用者もいる。また、職員は声をかけ、着る服をできるだけ選択してもらえるよう支援している。整容の汚れや服装の汚れが見られた場合には、さりげなく声をかけてフォローをしたり、居室に移動して、着替えてもらったりするなどの対応をしている。さらに、「髪を切りたいな」と希望する利用者もあり、訪問内容を活用して、好みの整髪に整えてもらっている。中には、理解がうまくできず、散髪や整容に抵抗のある利用者もいるが、職員は声かけやタイミングを上手に工夫して誘導するなどの対応をしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	◎	本人の持ち物は本人が管理し、好みに応じて整えられるよう支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	事故決定がしにくい利用者には話を聞きどうしたらいいかを一緒に考える。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	季節、外出先に応じた衣服が楽しめるよう支援している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	本人のそばに行き、さりげなく小さな声で対応している。モーニングケアの声掛けし、身だしなみの手伝いをする。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	コロナにより数年前より美容師さんに来てもらっている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	寝たきりであっても身だしなみや清潔が保てるように支援している。				
		h	職員の、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事を楽しく美味しく摂る大切さを理解出来ている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	献立や食材購入は業者をお願いしているが、調理や後片付けなどは一緒に行っている。			○	契約業者から食材を届けてもらい、利用者に調理の下ごしらえや後片付けなどを手伝わってもらい、職員がアレンジをしながら調理や盛り付けをしている。献立は、業者の栄養士が考えた栄養バランスの取れたものになっている。アレルギーや苦手な食材がある場合は、代替えの食材を用意したり、別の味付けにしたりするなどの対応をしている。利用者の状況に応じて、刻みや一口サイズなどの食の形態にも対応するとともに、状況により、ミキサー食などを業者に手配してもらうこともある。また、月2回程度の業者の配達を止めて、利用者の好みのメニューを聞いて調理して提供するとともに、誕生日には、事前に利用者に食べたい物を聞いて提供をしている。配達を止めた場合等の食材は、地元の商店街で購入するとともに、近隣住民等から野菜やゆずなどの差し入れをもらい、食卓に上ることもある。食器類は、事業所で用意した使いやすい物を使用している。感染対策や働き方改革もあり、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂っていないが、利用者の近くに座って、見守りや声かけ、食事介助をしている。利用者がほとんど食べていない場合には、職員が寄り添って食事介助をしたり、おにぎりなどを用意したりすることもある。さらに、日々の食事の摂取量を確認するとともに、必要に応じて、調理方法や味付け、食の形態などを、職員会議の中で話し合いをしている。加えて、食事量の低下など、利用者に変化が見られた場合には、医師と訪問看護に相談を行い、適切な対応をしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	次は何をしたらええかな、と、毎日の作業を楽しみにされ自分の仕事と考えている。				
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	本人、家族から聞き取り把握している。				
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音づかいのよいもの等を取り入れている。	◎	誕生日には本人の希望を取り入れている。また、季節の食材を使用し、旬のものを味わって頂くよう努めている。			○	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	利用者の身体機能に合わせて小さくカットしたりトミを付けたり、工夫しながら誤嚥に気を付けている。				
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	軽くて割れない、持ちやすい食器を使用している。			○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	食事時間は介助しながら利用者全体を見守り、声掛け対応をしている。出来ない時に一部介助している。			○	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	ホールにキッチンがあるので、調理の音や臭いをダイレクトに感じて頂いている。また、食事中には声を掛けて献立の説明をしながら食べて頂いている。	◎		◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	摂取量はそれぞれ違うが、スタッフはそれを把握しており、水分チェック表にて確認しながら確保している。				
		j	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食べやすく工夫したり、好きなものを増やしたりして対応している。水分の取れにくい利用者にはトミを使用したり、食事中に声を掛けて水分が取れるように取り組んでいる。				
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士はいないが同じメニューが続かないよう工夫し、資料等も参考にしている。			○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理用具は毎日消毒し、清潔を心掛けている。食材に関しても使用日の日付を入れ管理している。				
		m							

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	研修等で十分に理解している。	/	/	/	毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施し、必要に応じて、見守りやサポートをしている。歯科医の定期往診までではないものの、毎週月曜日を口腔チェックの日と決め、職員が全ての利用者の口腔内の状況の確認をしている。また、義歯は夜間に預かり、洗浄をするなどの清潔保持に努めている。さらに、歯科受診で指導を受けながら、適切な口腔ケアに努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケア時に付き添うため、概ね把握できている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科受診の際、歯科医の助言や研修にて口腔ケアに活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	義歯ブラシできれいに洗浄し、夜間は義歯洗浄剤に浸けている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後口腔ケアの支援をしている。出来ないところは一部助助する(義歯洗浄や歯磨き、うがい支援、口腔内残渣の確認等)。	/	/	○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	理解している。トイレでの排泄を、出来る限り支援している。	/	/	/	事業所では、可能な限り利用者がトイレで排泄できるよう支援している。中には、声かけやトイレ誘導することにより、布パンツで生活を送ることができている1名の利用者もいるが、ほとんどの利用者は紙パンツを使用している。中には、夜間にポータブルトイレを使用する利用者もいる。軟便剤や下剤を服用している利用者がいるものの、朝のラジオ体操や水分摂取を心がけ、自然な排泄を促すとともに、排泄のトラブルが減少している。また、おむつやパッド類は、事業所でまとめて購入し、各利用者の居室に保管をしている。また、利用者の状況に応じて、適切な排泄用品が使用できるように、職員間で検討をしている。さらに、汚染物をペラランダに出して置いておくことで、事業所内にいやな臭いが残らないように工夫をしている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄状況をチェック表にて把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	○	排泄量、失禁状態等により見直しを行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事量、水分量、薬等の可能性の確認。場合により協力医への相談等を行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表や日頃のパターンから実施している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	全員に対しては行えていないが、相談し選んで頂くことはある。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	本人の使用しやすい物や尿量に応じて使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	一日の水分摂取量や繊維質のものの摂取など工夫している。また、ヨーグルトや運動もしている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	利用者の希望日に入浴出来るようにはしていないが、温度や長さ、順番等には対応している。	◎	/	○	週2回、利用者が入浴できるよう支援している。「毎日入浴したい」という希望が出された場合には、対応可能としているが、利用者の重度化が進行し、曜日により、入浴の対象利用者を決めざるを得ない状況となっている。また、利用者と職員の1対1の入浴時に、よく会話が弾むほか、浴室から歌声が聞こえるなど、楽しみのある入浴支援にも繋がっている。必要に応じて、入浴後には、保湿クリームの塗布も行われている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ユニットバスにて個室のため、他者に気兼ねなくゆっくり落ち着いて入浴出来るようにしている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で洗身や洗髪が出来る方、そうでない方、状態に応じて安心安全に配慮して入浴出来るようにしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	声掛けを複数回に分けたり、声掛けの内容を工夫し、無理なく自然に入浴出来るよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェック、健康観察し、入浴中、その後に於いても観察を継続している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	概ね把握している。				生活習慣や希望から、夜間にパジャマなどに更衣をせずに寝る4名の利用者もいる。中には、夜間にズボンだけ履き替える利用者もいるが、定期的に着替えてもらうなどの清潔保持にも努めている。また、夜間に寝つきの悪い利用者には、精神科医に相談し、眠剤などの服薬をしている数名の利用者もいる。現在、不眠の利用者はいないが、夜間に目が覚めた場合には無理に眠ってもらうことなく、お茶を進めたり、会話をしながら見守りをしたりするなどの対応をしている。さらに、かけ布団や毛布などの寝具は、使い慣れた物を持ち込んで、使用している利用者もいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中出来るだけ起きていられるよう声掛けなど工夫している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	利用者の日中の活動状況や言動等十分に観察、検討し、医師に相談しながら支援している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	各自個室の為、個別に昼寝等気兼ねなく心身を休める事が出来ている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人が希望したり連絡の必要性を感じた場合は電話して話して頂くよう支援している。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	各自、状態に応じて声掛けしたり、必要な手助けをする等の支援を行っている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望がある場合は自社の携帯電話を使用したりして気兼ねなく電話出来るよう配慮している。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙は本人にお渡しし、その後家族にも伝えている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	必要時には家族に協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	全ての利用者が自分でお金を所持していないが、本人が使うことの意味や大切さは理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	コロナ前はお店の方に施設に来て頂き衣料品等自分で選んで購入出来るよう協力して頂いた。自分の目で見て選ぶ楽しさは理解している。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	現在、自分でお金を所持している方はいないが、買い物レクの時には持ってもらっている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	本人、家族、施設で確認、報告しているが毎回は行っていない。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	預り金に関しては出納帳を作成し、面会時に出納帳、領収書を確認して頂き確認印を頂いている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族が対応出来ない病院受診等対応している。	◎		○	コロナ禍が続き、面会や外出などの制限が設けられていたが、徐々に緩和され、利用者や家族から出された要望には、可能な範囲で対応をしている。家族の病院受診の同行支援ができない場合には、職員が対応することもある。また、利用者の買い物の依頼に対応するほか、ズボンの長さや調整、衣類の繕いなど、事業所内で得意な利用者や職員が対応することもある。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に掃除を行い清潔を心掛けている。季節の花を植えたり、絵や花を飾ったりして明るい雰囲気作りを努めている。見かけたら挨拶や声掛けをしている。	◎	○	○	玄関先には、気軽に座ることのできるベンチやスロープが設置されている。地域の花き農家から花が届けられ、靴箱の上に飾っている。また、広々としたエントランスは、来訪者が過ごしやすい空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない寂風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	掃除を心掛け清潔にしている。廊下には利用者や、出掛け時の写真を飾り、季節に応じた展示物などで心地よい空間を作っている。	○	○	○	リビングの窓から、隣家の整備された立派な和風庭園のほか、紅葉などの四季折々の景色を眺めることができる。玄関エントランスには、季節を感じる置物や利用者と一緒に作成した作品が飾られている。洗濯物は、テラスや脱衣場等に干され、利用者もハンガーに掛けることなどを手伝いしている。また、共用空間の整理整頓が行き届き、換気や清掃も行われ、快適な空間となっている。さらに、2階には畳スペースがあり、若い利用者が多いこともあり、収納のとしてリメイクで使用されている。加えて、ダイニングセットのいすと別に、ソファやいすが用意され、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。廊下には、外出した際に撮影した桜などの花を見に行った写真が飾られている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の掃除や消臭剤、すだれ等使用している。	/	/	/		○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の食材や植物、節句人形や笹飾り、クリスマスツリーなど見たり食べたりして感じている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	ホール、居室、どちらにいても双方の様子が伝わるようになっている。ホールでは気の合う利用者同士が会話されている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	自宅で使用していた寝具や椅子、写真やポスターなど飾られ、居心地よい空間を作るよう努めている。	◎	/	◎	居室には、利用者の馴染のある物を持ち込むことができ、花の写真や座り慣れたリクライニングチェアを持ち込み、居心地の良い空間づくりをしている。中には、携帯電話を持参して、家族と連絡を取り合う利用者もいる。また、自らが居室内を清掃をすることもあり、居室内に雑巾を干している様子を見ることもできた。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	居室前に名札を付け、共有スペースのトイレや浴室前にも表示している。	/	/	/	○ 利用者は、事業所内を自由に動くことができ、リビングに出て日向ぼっこをしたり、新聞や広報紙を読んだりしている。中には、ウエスを渡すと、窓ふきしてくれる利用者もいる。また、利用者が自分の居室を認識しやすいように、分かりやすく名前を表示している。さらに、1階の畳スペースにはミンや歌本が置かれ、カラオケの機材や雑誌などを手の届く場所に配置するなど、生活の場で、暮らしやすい雰囲気づくりも行われている。	
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	◎	居室は好きなように飾って頂き、買い物レクで購入した物や家族の持参物、写真等飾ってある。毎日掃除する利用者の掃除道具は同じ場所に置いてある。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられられない状態で暮らしていること、異常性、利用者にとらざる心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	拘束の研修も施設内で行い、全員参加して理解している。日中は鍵を掛けない。	◎	◎	◎	職員は、鍵をかけることによる利用者へのマイナスの影響をよく理解している。家庭と同じ感覚で過ごしてもらえようように、日中に玄関の施錠はしておらず、夜間のみ防犯のために施錠をしている。また、外に出たい利用者には、職員が付き添って事業所周辺を散歩をしたり、話を聞いたり、家族に外出支援をお願いするなどの対応をしている。利用者の安全面を考えて、「鍵をかけてほしい」という家族からの要望が出された場合には、理解していただけるように職員から丁寧に説明をするようにしている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	日中鍵を掛けない事に関して、入居時に伝えている。不安視する声は無いが、あればその都度話し合う予定である。	/	/	/		
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>										
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	医療情報等で各自確認している。また、新しい情報は申し送りやノートにて確認、把握している。	/	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	毎日のバイタルサインや健康状態に関して記録しており、異常等に注意している。	/	/	/		
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護師や協力医に気軽に相談出来る関係であり、入院につなげるなど実施している。	/	/	/		
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	協力医はいるが、希望する医療機関があれば受診できるよう支援している。	◎	/	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	往診時にかかりつけ医と顔を合わせ、話しをして良い関係が築けるよう支援している。	/	/	/		
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	必要に応じて家族に説明したり話し合ったりしている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	相談員や看護師と連絡を取り、書類や電話等にて情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	定期的に相談員と情報交換している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護師に気軽に相談出来、アドバイスをもらうことが出来る。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	いつでも相談出来る体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	異常時にも対応してもらえる体制があり、早期の治療につながっている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬剤情報がいつでも確認出来、理解している。 体調、病状の観察を記録し、情報提供している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	1回の服薬に対して3段階で確認し、誤薬が無いよう、また、飲み忘れを防ぐ体制を取っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	常に表情、行動、言動、体調など確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入所時に一度説明するが、その後状態変化に応じ家族と話し合いを行い、意思を確認し方針を共有している。				事業所には、「ひとり介護指針」があり、入居時に家族等に対応できることなどを説明をしている。往診医や訪問看護との連携が図られ、看取り介護を可能としている。また、重度化の対応や終末期には、家族等に意向を確認するとともに、医師や看護師などの関係者を交えて、チーム体制で話す機会を設けることにより、利用者や家族等の不安の解消に繋げている。さらに、終末期を迎えた家族は、コロナ禍の中でも、感染対策を講じた上で、事業所内に宿泊してもらうなどの対応をしている。さらに、認知症状が進行した利用者もいるため、積極的に認知症の勉強会を実施し、職員の理解促進にも繋げている。加えて、山間部に設置されている事業所の特性もあり、要介護4以上の利用者の割合が多く、今後も、終末期の対応や看取り介護の勉強会を継続して実施していくことも期待される。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	職員や協力医療機関等にもきちんと伝え共有している。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	スタッフの看取りに関する不安等について理解し、力量を把握している。支援の見極めを行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	丁寧に伝えることを心掛けて説明し、理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	日頃より相談出来る関係性を築いており、変化の都度相談、対応等を行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	気持ちに寄り添えるよう努めている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染対策研修会に参加し、まず予防、早期発見、対策等に努めている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	マニュアルを作成している。また、感染対策キットを事務所に準備しており、素早い対応が出来るようにしている。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	ニュースやネット、保健所、行政、地域の学校等からの情報を確認している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	出勤時の手洗い、検温等している。来訪者にも手指消毒やマスクを準備し、発熱のある方の面会は遠慮してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	利用者の状況や性格を把握し、面会時の家族との情報交換や意向の確認等を行いながら関係を築いている。	/	/	/	コロナ禍や感染対策が続き、家族が参加できる行事の開催は自粛をしている。毎月発行するもみじ便りを活用して、利用者の様子のほか、事業所の行事や出来事、職員の入退職などを知らせている。面会に来られないご家族には、電話連絡時に説明することもあるが、定期的に連絡することはできていないため、今後は、訪問が難しい家族との連絡方法を検討したり、定期的に情報共有できる機会を設けたりすることも期待される。また、高齢の家族も多く、オンライン面会の対応は、稀にしか行われていないが、対面での面会が行われるようになってきている。中には、頻繁に手紙で連絡を取り合う家族もいる。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	×	コロナ禍でまだ行事は行っていない。運営推進会議への参加はある。	○	/	○	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月紅葉だよりを発行し、利用者の様子を伝えている。文字や写真を多用し、見やすく楽しいものを作成出来るよう掛けている。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者の状態に関してはきちんと伝えるようにしているが、家族がそのことでホームに気兼ねしたりしないように、言葉遣いや対応にも注意している。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月「紅葉だより」でも報告するが、それ以外に別紙で送ることもある。	◎	/	○	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	今後起こり得るリスクを説明し、それに対して今出来る対応策も併せて説明し、家族の意見も頂いている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	必ずスタッフ、あるいは管理者が対応し、意見、要望、相談の確認をしている。また、電話やお便りも利用している。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	基本、管理者が対応している。きちんと説明し、理解、納得してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	丁寧に説明し、納得いく退居先に移ることが出来るよう支援している。	/	/	/	
<b>III. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の一部の方には紅葉だよりを送付し、回覧して見て頂いている。	/	○	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	コロナでしばらく中断していたが、地方祭ではホーム前で利用者におもてなしをしてみたり、花農家の人にもお花を頂いたりしている。	/	×	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩している方を見守りや声掛けをして頂いている。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	近隣の方が野菜や手作りおやつを持参して下さる。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもつらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	散歩の途中で声を掛けてもらっている。隣の家の庭を散策させてもらっている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	地方で開催で、神輿や獅子舞いが来たり、子供たちの、猪子付きが来てくれる。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー、コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の飲食店からお弁当を取りお弁当の日を設けたり、美容院から出張してもらって利用者の髪をカットしてもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	声掛けし、全員ではないが参加して頂いている。	○	/	○	運営推進会議は、書面開催が続いていたが、令和5年5月から徐々に集合形式の会議が開催できるようになってきている。また、参加メンバーや家族に、管理者等は声かけをしているが、決まった家族や町担当者、地域住民等の参加に留まっている。会議の参加者からは、「地域に対して、利用者の受け入れを含めて、良くしてもらっている」という意見も聞かれる。今後は、より多くの参加協力を得た会議が開催されるように、継続して呼びかけをするなど、工夫された取り組みが行われていくことを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	その都度説明し報告している。質疑応答もありいろいろと意見も頂いている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	時間を調整し参加してもらいやすいようにしている。	/	/	○	
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	玄関、事務所に掲示しており、スタッフ会でも時々伝えている。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	玄関に掲示している。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	スタッフ会にて研修報告を行っている。	/	/	/	不定期に、管理者は職員との個別面談を実施し、意見や要望を聞いている。また、勤務体制の考慮や職員配置の調整を行うなど、職員のストレス軽減に努めている。さらに、法人内には、福利厚生等のための「ゆうゆう会」が設置され、職員同士で食事会を実施するなど、交流を図る機会も設けられている。加えて、研修参加を促して、職員のスキルアップに努めるとともに、介護福祉士などの資格取得の支援も行われている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修への参加や問題などをスタッフ会時に相談し合っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	評価シートで評価出来るよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会への加入等の取り組みがある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	情報共有しながら取り組んでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	スタッフ会で研修を行っている。	/	/	○	職員は研修等で学び、虐待や不適切なケアに該当する行為を理解している。不適切な言動が見られた場合には、職員同士で注意し合うとともに、必要に応じて、その場面の話し合いをするようにしている。事業所全体で内容共有が必要な場合には、管理者に相談を行い、該当職員に確認して指導や注意喚起をするともに、職員会議等の中の事例に取り上げて、話し合いをしている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日常的に話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者との会話や言動に気を付け対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	3ヵ月に1回のスタッフ会での研修により理解出来ている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会を持っている。	○	スタッフ会や委員会で話し合う機会を持っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	説明し理解して頂けるよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	定期的に研修に参加し、理解できるように努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	研修を受けて、制度について理解を深め必要な方には支援出来るように努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	急変や事故に対するマニュアルを作成し、周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	消防署の協力を得て訓練したり、研修に参加し対応について確認している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	事故報告書、ヒヤリハットは会議の時に報告し、対応についても検討し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	スタッフ会や申し送りの時に検討し、事故防止に努めている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成して確認している。苦情があった場合は対応している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	マニュアルに沿って対応出来るようにしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情については、スタッフ、管理者で検討し、場合によっては会社責任者に連絡して指示を仰げるようにしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者や家族が自由に要望等を伝えて頂けるよう努め、運営推進会議でも伝えて頂いている。	○		○	日々の生活の中で、職員は利用者から意見や要望を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からは、面会時や電話連絡時を活用して、職員は利用者の様子を伝え、意見や要望を聞くようにしている。物価高騰等もあり、令和5年12月から事業所の利用料等が値上げされることになり、家族から異議が出されたが、管理者等が事情を丁寧に説明した上で、法人本部に報告する対応を行い、その後に家族は納得されている。また、日頃から、職員は管理者と気軽に会話をすることができ、相談にも応じてもらっている。職員から出された提案は、月1回開催される法人のブロック会の中で伝えることもでき、検討も行われている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に意見箱を設置している。面会時や運営推進会議でも要望等確認している。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	定期的な訪問は無いが要望は伝えられる環境にある。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	スタッフ会で意見や提案等を聞く機会を持ち、より良い支援について話をしている。			○	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価の意義や目的を理解し、全スタッフで自己評価に当たっている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組み、管理者やユニット長が取りまとめて作成をしている。サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の中で報告し、参加の有無に関わらず、会議の参加メンバーや全ての家族に議事録を送付している。会議は書面開催が続いたこともあり、利用者家族等・地域アンケート結果から、サービス評価の取り組みに対して、十分な理解が得られていないことが窺えるため、集合形式の会議の中で、サービス評価の意義や目的を説明したり、モニターのあり方や報告の方法を検討したりするなど、周知方法を職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	結果を踏まえてスタッフ全員で取り組むように努めている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて報告し、今後の取組みに関して経過を見て頂いている。	×	×	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	スタッフ会や運営推進会議にて確認している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	自然災害、火災等のマニュアルは作成しており、スタッフも確認できるようになっている。	/	/	/	事業所では、災害マニュアルを作成し、年2回火災や昼夜などを想定した避難訓練を実施している。コロナ禍が続いていることもあり、地域とのネットワークを活かした合同訓練のほか、災害支援体制の構築までには至っていない。管理者は、BCP(事業継続計画)の策定にあたり、地域住民から情報収集を予定しており、早期に計画が策定されることも期待される。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	火災訓練は年2回、日中、夜間想定にて実施し、水害訓練は年1回行っている。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	設備や非常用品の点検を定期的に行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	消防署には訓練に参加頂き指導も受けているが、地域住民や他事業所の参加は無い。	○	×	○	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害を想定した市町の訓練の参加や、災害時に協力頂く介護施設はあるが、共同訓練は行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	2か月に1回、「紅葉だより」を自治会で配布して、情報発信をしている。	/	/	/	地域住民から、電話等で事業所に相談が寄せられた場合には、関係機関に繋ぐなど、適切に対応をしている。また、管理者は内子町グループホーム連絡協議会に参画し、地域へ向け情報発信するとともに、情報共有をする機会に繋がっている。感染対策もあり、協議会が行う運動会には、参加できていない状況が続いている。また、近隣住民に対して、事業所便りのポスティングを行い、情報を発信している。以前は、事業所で「もみじ祭り」を開催し、地域住民や家族にも参加協力をしてもらうことができていた。管理者は、もみじ祭りの開催予定まではしていないが、「事業所で、手作りの作品等を展示したい」と考え、代替となるより良い企画を開催するなど、地域のケア拠点としての機能を発信していくことも期待される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談を受ければ対応する。入居の見学や問い合わせのある時は行っている。	/	×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	以前はカフェを開催していたが、コロナ禍で現在は実施していない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	コロナ禍のため受け入れていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	グループホーム連絡会に参加し、連携を取り、活動を行っている。	/	/	○	